

第49回 日韓経済人会議

THE 49th JAPAN -KOREA BUSINESS CONFERENCE

2017. 9. 26 ~ 27 SEOUL, KOREA

共同声明

「激動する国際情勢における更なる日韓協力、新たな分野へ挑戦し、共に未来を拓こう！」

第49回日韓経済人会議は2017年9月26日と27日の両日にわたって大韓民国ソウル特別市に於いて開催され、日本側からは佐々木幹夫団長以下108名、韓国側からは金鉦団長以下193名が参加した。

日韓両国はこれまで多くの困難に直面してきたが、両国の経済人は日韓経済協力促進のため、日韓経済人会議を1969年以来一度も中断することなく両国交互に継続開催してきた。また、日韓経済協力のみならず、経済・文化・人材の3本柱の絆を絶やすことなく、両国友好の為に尽力してきた。一方、日韓両国間には引き続き困難な問題が存在するが円滑なビジネスの進展の為には安定した両国関係が大前提である事を勘案するに、先般のウラジオストックでの両国首脳会談において、両国首脳の信頼関係が構築され両国間に横たわる問題に関しても、安定的に管理しながら、未来志向の関係に発展させていく事にしたことに対し日韓両国経済人として心より歓迎するものである。

今回の第49回日韓経済人会議においては、最近の激動する国際情勢の中、両国経済人は第4次産業革命・日韓両国共通の社会課題の解決・青少年育成交流など、次の50年を見据えた未来志向の日韓協力について議論した。特に日韓両国は、日本の雇用確保の問題や韓国の大学生の就職難など、それぞれが直面している課題について今後如何に解決していくべきかを含め、下記事項に関して認識を共にした。

「一つの経済圏形成に向けた粘り強い努力の継続」

日韓FTA、日韓中FTA、またメガFTAに代表されるような日韓両国、更にはアジア全域の経済発展と自由で公正な貿易の実現につながる一つの経済圏形成に向けた努力を継続する。

「第4次産業革命等新たな分野への挑戦、協力」

第4次産業革命時代を迎え、IoT、AI等の自律的最適化をより高度化させ、その延長線上にある生産性向上・労働人材の移動・少子高齢化対応・最先端医療分野・バイオ技術の発展・グリーンテクノロジーの革新など、幅広い発展を目指し、更には新しい時代を担う専門人材の育成等幅広く情報と知恵を共有し、協力する。また、発展を促す意味でも両国の新技術活用の為に制度整備を進めていただくよう両国政府に要望する。

「日韓両国共通の社会課題の克服に向けて」

新たな分野に挑戦していく一方、高齢化に伴う医療・介護問題、PM2.5等国境を越える環境問題、自然災害に対する防災面での対応等、人々の生活に密着した、両国共通の社会課題の克服に向けて、人々が安心して幸せに過ごせる為の仕組み作りに協力する。

「第3国における協業の拡大」

両国が資源開発、インフラ輸出等を通じて第3国において共同してプロジェクトを創造していくことは、国際競争力の強化と共に、第3国の総合的社会開発への協力の観点からも極めて重要との認識のもと、今後も第3国における協業をより一層拡大する。

「青少年交流の一層の拡大」

日韓の次の50年を担う若者達の交流の拡大、充実こそが重要との共通認識に基づき、日韓高校生交流キャンプ・日韓未来学生会議・韓国大学生の在韓日本企業に於けるインターンシップ研修、中小企業若手経営者の交流等、幅広い分野での協力を継続すると共に、日韓両国政府へ更なるサポートを要請する。

「平昌冬季オリンピック・パラリンピック、東京オリンピック・パラリンピックに向けて」

激動の世界を平和な世界に変えるきっかけとなる事を願い、平昌冬季オリンピック・パラリンピック、東京オリンピック・パラリンピックの二つの大会が成功裡に開催されるように相互に協力し、観光交流の拡大につながることを期待する。

「両国政府への期待」

経済・人材交流に加え、「日韓・韓日交流おまつり」の様な草の根ベースの文化交流を充実・拡大させ、今後とも民間の先頭に立って、両国の友好・経済交流拡大に尽力していく事とした。そのためにも両国政府の一層のご理解と継続的なご支援を期待する。

次回の日韓経済人会議は第50回記念として2018年に日本国に於いて開催する事とした。

2017年 9月 27日

日本側代表団団長 佐々木幹夫
韓国側代表団団長 金 鉦